

令和元年度土木学会全国大会 参加報告

松永 浩

MATSUNAGA Hiroshi

東京電力ホールディングス(株)
(ソーシャルコスト検討委員会委員)



JSTTソーシャルコスト検討委員会として、今年度の土木学会全国大会において発表する機会を得ましたので、ご報告させていただきます。

今年度の全国大会は、香川大学幸町キャンパスをメイン会場として、9月3日から5日にかけて香川県高松市で開催されました。四国での開催は平成23年度の愛媛大学以来8年ぶり、また、香川県高松市での開催は初めてとなるようです。

香川県は、面積は全国の都道府県で最も小さいものの、温暖な気候と瀬戸内の美しい自然に恵まれ、加えて近年では3年に1度の瀬戸内国際芸術祭が開催され

るなど、文化的にも脚光を浴びています。また、古くからの小麦や塩の生産で「うどん県」としても有名で、全国から毎年多くの観光客をお迎えしているようです。個人的には、瀬戸内を拠点に活躍するユニットSTU48の地元のひとつ、ということに魅かれていました。

写真は、会場近くの手打ちうどんのお店「さか枝」です。我々が入店したときはそれほど行列も長くはなかったのですが、あっという間に見てのとおりの大行列に。美味しく、コストパフォーマンスに優れたうどんは、どこのお店も大人気でした。



▲ 会場入口付近にて・筆者



▲ うどん店の行列



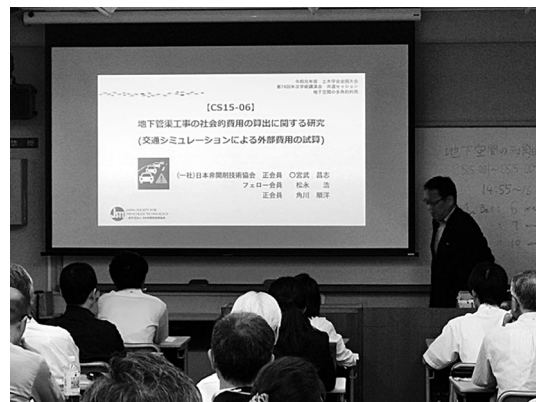
▲ 手打ちうどん「さか枝」



▲ うどん(小)にトッピング



▲ 発表会場



▲ プレゼン風景

今年度の大会テーマは「激甚化する自然災害、挑戦する土木～レジリエントな社会の構築に向けて～」。まるで今秋9月から10月にかけて、関東甲信越や南東北において猛威をふるった台風15号、19号や、その後の大雨による被災を予知するかのような、時宜を得たものでありました。

講演会や討論会も大会テーマに沿ったものが多く、全体討論会でも過去の自然災害を教訓に、レジリエントな社会の構築に向けて、土木にどんな貢献ができるのか、といった内容で、活発な議論が交わされていました。

さて、我々ソーシャルコスト検討委員会は、第74回年次学術講演会の共通セッション「地下空間の多角的利用」において、「地下管渠工事の社会的費用の算出に関する研究（交通シミュレーションによる外部費用の試算）」と題して発表しました。

過去、ソーシャルコスト検討委員会の研究成果である「地下管渠工事の社会的費用の算出の手引き」を、さまざまな報告会の場で発表してまいりましたが、参加者によるアンケート結果などにより、適用にあたっての課題が明確になってきました。これは、詳細な外部費用の算定にあたっては、都度、交通シミュレーションによる試算を行うため、時間・コストを要して敷居が高い、といったものです。

この部分の研究をさらに進め、今回は、あらかじめ汎用的に検討されるケースを想定し、事前に試算することによって、複雑な交通シミュレータを用いることなく、簡便に社会的費用を用いた経済比較を行うツール（判定グラフ）を提供する、といった内容で原稿をまとめました。

プレゼンは、ソーシャルコスト検討委員会の宮武委員長が行いました。会場は写真のとおり満席で、立見が出るほどの聴講者が集まりました。時間の制約上、短時間の発表ではありましたが、活発な質疑応答などを通じて、約50人の参加者の理解も深まったことと思っています。今後も、さまざまな報告会などを積極的に活用し、本委員会成果のさらなるPRに努めてまいりたいと考えています。

我々が発表した大会初日は天候にも恵まれましたが、翌日は午後から集中豪雨が発生して高松空港が一時閉鎖となるなど、交通機関が一時的にストップして、他のセッションの発表にも影響が出たようです。大会テーマである自然災害が、まさに身近なものであるという印象を受けた瞬間でした。

最後に、JSTT事務局やソーシャルコスト検討委員会のメンバーのみなさまには多大なるご支援をいただきましたこと、この場をお借りして厚く感謝を申し上げます。次第です。